学外研究支援（海外・国内）に係る成果報告書

2026 年 10 月 20 日

北九州市立大学　学長　様

所属・職名　　外国語学部・教授

氏　　名　　堀地　明

2026 年度に実施した学外研究支援（海外・国内）について、下記のとおり成果を報告します。

［実施期間］
2026 年 4 月 1 日～9 月 19 日

［出張先］
中国北京市海淀区中関村大街 59 号
中国人民大学清史研究所

［テーマ］「義和団事件による北京の都市破壊と首都改造・社会変容」

［当初の目標及び成果の要旨］

「義和団事件による北京の都市破壊と首都改造・社会変容」と題する本研究は、1900 年の義和団事件から 1911 年の辛亥革命までの清朝最後の 11 年間、義和団事件の戦災による首都北京の都市破壊と義和団事件後の新政（立憲改革）期における復興事業を北京の首都改造という観点から捉え、それらを通じた首都の社会変容の解明を課題とする。本研究では、新政期の諸政策の展開が清朝の北京の首都空間にいかなる作用をもたらし、首都とその社会にいかなる改造と変容をもたらしたのか、首都北京における新政とは、どのようなものであったのかの解明を志す。

具体的研究課題は、①義和団事件の戦災による北京城の破壊と首都機能の崩壊に関する研究、②首都北京の都市基盤施設（城門・街道・上下水道）の再建と新設による首都改造と社会変容、③巡警の新設による伝統的治安統治の変容に関する研究である。研究の実践的課題としては、（A）研究課題に関する一次史料の調査収集と分析、（B）史料に出てくる地名・機関等の遺跡・跡地の踏査、（C）中国の北京史研究者との交流・意見交換と定めた。

4 月 1 日に渡航、4 月 2 日に受け入れ研究期間である中国人民大学清史研究所に到着し、受け入れ手続きを完了させ、学内宿舎に入り、研究生活を開始した。中国人民大学は北京市内における四大重点大学（他に北京大学・清華大学・北京師範大学）の一つである。清史研究所は、研究員 30 名を擁する中国国内でも屈指の清朝史専門の研究期間であり、修士課程と博士課程のみが開設されている。私は本学赴任前に中国政府奨学金留学生として 2 年間留学した経験があり、今回の訪問では過去の留学経験が大いに役に立った。なお、中国の大学は寄宿舎生であり。キャンパス内には学生・職員等 3 万人が生活しており、商店・コンビニエンスストアと朝昼晩食事可能な食堂・レストランも数多あり、スマートフォンショップ・銀行 ATM・各種運動施設・病院等が全てあり、生活がキャンパス内で完結可能な小都市である。

中国での生活には、スマートフォン SIM カードの購備と電子決済アプリケーションのダウンロード、電子決済アプリと銀行口座との紐付けが必須であり、到着後はこれらの生活基盤を整えるのに予想以上の手間と時間を要した。何しろ、宿舎内の洗濯を使用するにも、洗濯機の QR コードをスマートフォンでスキャンし、電子決済アプリで料金を支払う仕組みである。学内での買物・学内食堂での飲食は現金払いではなく（現金払いは拒まないが釣り銭を用意していない）、全て電子決済であった。天安門広場への入場もスマートフォンの専用アプリを用いての事前予約が必要。一週間ほどして電子決済が可能になり整うと、全ての支払はスマートフォンを用い、自然と現金が入った財布を携帯しなくなったばかりか、現金を所持することもなくなった。到着後二日後から、実地調査を開始したが、スマートフォンでの事前参観予約の高くて分厚い障壁に阻まれることがしばしばであった。

下記では、（A）研究課題に関する一次史料の調査収集と分析、（B）史料に出てくる地名・機関等の遺跡・跡地の踏査、（C）中国の北京史研究者との交流・意見交換について、北京滞在中の研究成果を報告する。

（A）研究課題に関する一次史料の調査収集と分析

史料調査は中国第一歴史檔案館（公文書館、以下檔案館と略記）、中国国家図書館、中国人民大学図書館を利用した。檔案館は清朝時代の行政文書を架蔵する公文書館であり、最も利用が多かった。檔案館では、研究課題①②③に関する多くの行政文書を閲覧し入手した。檔案館の文書公開は整理が完了したものから、電子閲覧の形式で公開されている。文書作成者・年代・主題等で検索し、関連する文書の一覧を作成し、研究課題①②③に関する必要な文書を粗読みしながら、文書をノートに筆写し、長大な文書はダウンロード申請をして入手した。入手し得た文書は約300 件であるが、

平素の海外出張で実働 5 日間の閲覧とは比較できないほどの多くの行政文書を閲覧・入手することができた。中国国家図書館では、義和団事変後の北京の都市建設に関する編纂史料を閲覧し抄写した。課題の史料収集が一段落する毎に、文書の行草書書体の文字を楷書体に確定する初歩的判読から始め、一件毎の文書の形式と内容を詳細に判読し、初歩的仮説を立てながら。次の課題の文書収集方針を決定した。この方法で、研究課題①②③に関する文書収集を進めた。文書の分析に関しては、まとまったものから論文化を試み、「清代北京の首都管理」と「義和団事変下の首都北京」等の原稿を執筆した。

（B）史料に出てくる地名・機関等の遺跡・跡地の踏査

大別して、渡航前から計画していた地点と遺址、一次史料を判読する中で知り得た地点とをスマホートホンの地図アプリで確認し、20 世紀初頭の古地図と照らし合わせ、現地に赴いて踏査し、カメラに収めた。踏査した地点・遺址はおよそ 50 箇所であり、その一部は Facebook「堀地明」で公開している。実地調査の目的は、各地点・遺址を自らの足で捜索し、その地点・遺址の場所を確認し、周囲を含めた空間を実地で認識し、写真撮影して記録することにある。この作業は文書史料の解読と分析を進める上で、文書史料の情報を実際の空間に即して体感・理解するためであり、文書史料が伝える情報の正確な理解に資することが可能である。故宮博物院や天壇等の世界遺産の観光地も、観光目的ではなく、一個の歴史空間として見て参観すると、多くの知見を得ることができた。実地調査は最寄りの地下鉄駅から徒歩でスマートフォンの地図アプリを用いて目的地へ赴き、古地図と対照して地点を確認する方法を採用した。タクシーやシェア自転車を使わず、徒歩で古都北京の街並みを踏査すると、自然と北京市内の距離感と地理的感覚が身につき。過去に判読した文書史料に出てきた地名も確認でき、史料判読と分析に非常に有益であった。また、博物館・展示館の参観も重視した。これらは貴重な展示物を実見でき、中国研究者として素地素養を向上させる格好の機会であった。

（C）中国の北京史研究者との交流・意見交換

中国人民大学清史研究所の研究者とは、知己の紹介により、メッセージアプリでアポイントメントを取り、研究室を訪問し、自己紹介と現在の研究課題を伝え、時には拙著を寄贈し、情報交換を行った。4 月到着後二週間には、複数の研究者から食事に誘われることも多く、会食時は貴重な意見交換の機会であった。時には清史研究所の史跡巡検授業に同行することもあり、大学院生と交流する機会も持てた。大学院生は、日本への渡航経験があるものがほとんどで、日本社会の具体的な諸相を理解しており（少なくとも日本の学生よりも深い理解）、訪日経験者のある学生の対日印象は頗る良好であり、自らも含めて日本の学生に中国の実情を伝える教育の重要性を強く感じた。

学外・学内での学会での報告を三度依頼され、学術報告を行い、討論に加わり、「北九州市立大学」の宣伝にも鋭意努力した。留学時代の多くの中国人同学と交流を温め直し、多くの研究者と知りあいになれ、意見交換を行い、交流を進展させることができた。

出発前は 2025 年 11 月における首相の国会答弁に関連した日中関係の悪化により、中国での日本人への不利益行為が懸念されたが、そのような機会に遭遇することもなく、順調に研究生活を送ることができた。この点は中国人民大学清史研究所に深謝する。また、本学にも今回の海外研究支援に厚く御礼申し上げたい。この半年の中国滞在経験と成果を授業や留学僧弾頭において学生に積極的に還元してゆく所存である。

［成果の公表］

※下記は全て海外研究支援期間内に基づく研究成果の公表予定である。「成果物」は公表予定であるため貼付はしない。

①「清代北京の首都管理」（堀地明・陳捷編『アジア遊学 北京―歴史と文化』2027 年刊行予定）

②「義和団事変下の首都北京」（『北九州市立大学外国医学部紀要』162、2027 年 3 月刊行予定）

③「北京史跡踏査報告」（第 6 回北京史研究会、2026 年 11 月 7 日、東京大学、報告予定）

④「義和団事変下の首都北京」（京都大学人文科学研究所「中国社会経済制度の再定位」共同研究班、2027 年 1 月 22 日、報告予定）

＜学会発表等（既発表報告～＞

①招待報告、8 月 23 日、「嘉慶十八年北京大水害与救荒」（中国語）

中国人民大学清史研究所暨生態史研究中心・新郷学院、・山西大学歴史文化学院暨環境人文与災害治理研究院・国家災害防御協会災害史専業委員会主催

「災害史視野下的城与人”国際学術研討会 暨 災害与歴史”第十届高級研修班」

河南省新郷市輝県百泉賓館主楼大堂

※50 人規模の院生と若手研究者養成の国際学会兼研修会

②学会報告、9 月 6 日、分論壇 13 清代中国的城市、「清代北京治理問題」（中国語）

中国人民大学・国家清史編纂委員会主催　国際清史学科発展暨戴逸先生百年誕辰紀念大会

中国人民大学中関村校区（北京市海淀区中関村大街 59 号）

※400 人規模の中国全土から清史研究者が参加する大規模学会、報告本数は計 260 本。

③招待報告、9 月 17 日、「清代北京糧食流通」（中国語）

中国人民大学歴史学院

中国人民大学通州校区（北京市通州区運河東大街 37 号）

※歴史学部学部生 40 名が参加



②学会報告、2026 年 9 月 6 日、中国人民大学・国家清史編纂委員会主催　国際清史学科発展暨戴逸先生百年誕辰紀念大会　分論壇 13 清代中国的城市、「清代北京治理問題」（中国語）